

デモグラフィック

No370

民主主義学生同盟
市大支部機関紙

2/22

大学の徹底した民主的改革が 封鎖貫徹し大学解体が！

大学解体路線を断固として拒否し 政府独占と対決する大学建設へ

【はじめに】
 学生諸君、我々は現在、極めて重大な転換点に立っている。教育部民主化争い、そして、その結果として市大生学の民主的改革をめぐる争いには、大学は必死に到達している。即ち、政府独占と対決する大学建設をめざし、徹底した民主的改革を推し進めていくのみ、それとも、大学そのものの存立を否定する封鎖貫徹し、入試粉砕、大学解体へと、スルスルとすすんでいくのみである。我々は、まさに「解体か、改革か」を選択する時に来ている。

「学生諸君、再度問いかけよう。我々にとって、今問われていることは、何なのか。我々の目のあり方について……」然り、同時にこれは、一般の抽象的な理想的な議論ではなく、現実の情勢の中で、現実の大学を、この市大をどうするかという実践的な問題である。解体な改革かは、どうでも良い問題ではない。現実には、解体を主張し、又、改革を言いつつ、解体を裏切るとする諸君、社学同、統一会諸君が存在している。我々は、ここに、大学解体路線を徹底的に批判し、政府独占と対決する新たな大学建設をめざし、大学の民主的改革へ、巨大な前進を開始しなければならない。

②政府自民党の反動的「大学再編策動」と大学解体路線

大学解体を主張する諸君はいつ、もはやかるべき自治はない。「大学自治など」は概念の中にも存在しない。彼らは、帝国主義現代における大学を、無抵抗の商品としての労働能力を養成する機構としての「教育を、

その過程としてのみ位置ける。そこから直接的に、封鎖し入試粉砕し技能マヒさせ、商品としての労働能力の養成過程の破壊し大学解体を導き出されるのだ。(社学同諸君は労働力の再生産過程の破壊と呼ぶが、これは、彼らの全くの不勉強の証明であって、労働力の再生産過程とは労働者の生命維持及び世代交代の過程であり、その破壊とは何を意味するか、彼らには、わからない。) 其労働諸君にあつては「言葉は社学同諸君より正確に使っているものの、大学及び教育の商品としての労働能力の養成機構及びその過程として、ブルジョアイデオロギーの生産の場として位置づけられない」とは、口頭では全く、うりうりである。労働者の位置づけは、資本にとっては、全くの通りであり、「真理の探求」などという「学問の発展」のための「自治」などというややこしいものはない。これは、いふまでもなく、その立場からの側面と位置づけられ、隠ぺいする。果ては資本の要求と合致する。(我々は資本制生産様式という階級社会にあって、大学及び教育が異なる側面を持つている事を否定する。このではない。注意すべきは、それが、大学及び教育そのものから生み出されるのではなく、大学及び教育が資本制生産様式という階級社会の中にある。そこから生み出されるものである。それは、国家支配階級の大学政策、教育政策を通じて、貫徹されるものである。) ハウラ、ハウラ、

大学の民主的改革をすすめるよう！